

抽象概念を表す表現の導入例を考える

— 「うがった」見方／解釈とは —

鈴木智美

キーワード：抽象概念語彙、中級・中上級レベル、使用状況・文脈、導入例、「うがった」

1. 研究の目的

本研究の目的は、何らかの抽象概念を表す表現について、日本語教育の立場から、その的確な導入に役立つ具体的な使用文脈例を考えることである。

中級あるいは中上級レベル以上になると、生教材も含め、教育現場では様々な教材を扱うことになる。何らかの抽象概念を表す語彙・表現があれば、その意味・用法についておさえる際に、当該のテキストで取り上げられている文脈を敷衍して説明するなどとともに、他のいくつかの具体的な例を補って示すことも必要になる。ただし、通常の辞書等を見ても、その表現について、必ずしも日本語教育の現場に適用可能な文脈例が具体的に示されているわけではなく、教師は学習者にとってわかりやすい導入例を自身で探し、考え出す必要性にしばしば迫られる。そのような表現については、その導入例のヒントを蓄積して、教師間で共有できるようになるとよいのではないだろうか。

また、そのような抽象概念を表す語彙・表現の中には、学習者には「理解できればよい」とされるもの、即ち、現段階で学習者に産出することまでは求めないとされるものもある。しかし、的確に理解するためにも、その語彙・表現の意味するところはポイントをおさえて提示される必要がある。また、「理解できればよい」としても、学習者の使用が実際に制限されるわけではなく、学習者がそれを使おうとする際に、曖昧なあるいは間違っただけの理解のままに使用してしまうことは避けたほうがよい。

本稿では、的確な導入例を示すことが望ましいと思われる表現の中から、ケーススタディとして、日本語教科書にも見られる「うがった」(穿った)という表現(「うがった見方」、「うがった解釈」など)¹を取り上げる。「うがった見方／解釈」とは、どのようなことについて、どのような見方をし、あるいはどのように解釈する場合に使うものなのだろうか。ここでは、この表現がどんな時に使われるのかということを示すために、的確な事例をどのように補って提示することができるかについて、具体的に検討する。なお、「穿」は常用漢字表に含まれていない漢字のため、以下本稿では表記が問題とならない限り、対象となる表現を「うがった」と表記することとする。

¹ 例えば、『生きた素材から学ぶ新・中級から上級への日本語』(鎌田他 2012年、ジャパントイムズ)のユニット2「若者の自己評価」本文(「読んでみよう」)において、質問紙調査の結果について2つの解釈が示され、1つは「自然な解釈」であり、もう1つは「…という穿った解釈である」(pp.29-30 下線は引用者)とした表現例が見られる。なお、動詞「うがつ」は『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』の語彙表には含まれておらず、いわゆる級外語彙である。

2. 抽象概念表現の導入に関する先行研究

鈴木（2016）では、的確な導入例を考える必要のある抽象概念表現の1例として、中級レベルの読解教材から「良心的」という語を取り上げている。そこでは、コーパスに基づき、それが述語表現として用いられた際（「～が良心的だ」）のガ格に立つ名詞句、また名詞句を構成する際（「良心的な～」）の後続の名詞句の例を見た上で、その前後の文脈を探り、「良心的」という表現が使われる際の文脈について、ポイントを2点導き出している。

1つは、「良心的」は、「主として商売のあり方、顧客相手のビジネスのやり方について述べるもの」（鈴木2016：106-107）であるという点である。名詞「良心」は、人の一般的な道徳的意識や善悪を判断する理性について言うものであるが、接辞「的」を付した「良心的」は、「人の性格や一般的な態度について述べるものではない」という点に注意が必要であるとしている。もう1つは、通常であれば「利益至上主義」にしたがうと思われるところで、「思いのほか顧客の立場に立った、顧客を重視・尊重するような対応をとっている」と思われる事例に遭遇した際に、そのあり方について述べるという点である（鈴木2016：107）とする。そして、これらのポイントをおさえた上で、その具体的な使用状況・場面例の試案を2例示している。

本稿でも、上記の検討方法にならい、コーパスにおける実例を参考にしながら、「うがった見方／解釈」の使用文脈を探っていく。

3. 「うがった」見方／解釈とは：辞書等の記述

「うがった見方／解釈」とはどのような見方・解釈なのだろうか。具体的な導入例を考えるために、まず、「うがった」という表現の意味・用法について、各辞書の記述を確認してみる。国語辞典においては、「うがった」は動詞「うがつ」の1つの用法として記述されている²。以下、主な辞書について、出版年の古い方から順にその記載内容を掲示する。『広辞苑』については第六版（2008年）と第七版（2018年）において記述が変更されており、参考のために双方を掲げる。なお、下線はすべて引用者によるものである。

- (1) 『日本国語大辞典 第二版』第二巻（2001：132）：「穿つ」

隠れた事情や細かい事実、また、世態や人情の機微を指摘する³。

- (2) 『大辞林 第三版』（2006：209）：「穿つ」

事の裏面の事情を詮索する。人情の機微などをとらえる。「-・った見方をする」「-・ったことを言う」

- (3) 『広辞苑 第六版』（2008：237）：「穿つ」

せんさくする。普通には知られていない所をあばく。微妙な点を言い表す。「-・ったことを言う」「-・った見方」

² 動詞「うがつ」を用いた慣用表現に「微に入り細を穿つ」（細かなところまで気を配る）というものがあるが、国語辞典では、これは通常「穿つ」ではなく「微」あるいは「細」の項目に示されている。

³ 『日本国語大辞典』の「穿つ」についての記述には、現代語の例は挙げられていない。『吾輩は猫である』（夏目漱石、1905-1906年）における「『何でも自分の嫌いな事を月並と云ふんでせう』と細君は我知らず穿った事を云ふ」（下線は引用者）が最も新しい例となっている。

- (4) 『明鏡国語辞典 第二版』(2010:152):「穿つ」
物事の真相や人情の機微をしっかりとらえる。「なかなか-ったことを言う」「真理を-名言」／プラス評価で使う。「あまりに-った(=うがちすぎた)見方だ」など、深読みしてツボをはずす意で使うのは誤り。
- (5) 『新明解国語辞典 第七版』(2012:116):「穿つ」
人情の機微や事の真相などを的確に指摘する。「穿った事を言う」
- (6) 『岩波国語辞典 第七版 新版』(2013:107):「穿つ」
物事や人情の隠れた真の姿に、たくみに触れる。「-った事を言う」「-ちすぎの見方」
- (7) 『研究社 日本語口語表現辞典』(2013:102):「穿った」
物事の本質を的確に表した。考えすぎた。曲がった。
 《使い方》穿った(見方、考え)だ、穿った(ことを言う、見方をする)
 《解説》「穿つ」は、「雨だれ石を穿つ」のように、穴を開ける、という意味を持ち、元々は、
 物事の裏事情を明らかにする、物事の本質をよくとらえている、という意味であった。転じて、現在では、「考えすぎた」「詮索するような」「ひねくれた」「批判的な」
 などという否定的な意味で使用されることも増えてきている。
 《会話例》 A:社長、最近みんなに優しいけど、何か考えがあるんじゃないか?
 B:それは穿った見方でしょ。もっと素直に受け止めれば?
- (8) 『広辞苑 第七版』(2018:249):「穿つ」
物事の本質をよくとらえる。人情の機微など、普通は知られていない微妙な事柄をうまく言い表す。「-ったことを言う」「-った見方」

国語辞典に挙げられている例を見ると、まず、「うがった」に後続してよく用いられる共起表現として、「うがったことを言う」「うがった見方」などがあるという情報を得ることができる。また、これらの辞書の記述を総合して考えると、「うがったことを言う」とは、「隠れた事情や事の本質をとらえて言い表すこと」であろうと理解できる。ただし、この説明だけでは、実際にどのような状況でどのようなことを言った場合に「うがったことを言う」とされるか、具体的にどのような見方が「うがった見方」と考えられるのかという点までは示されない。

この点について考えるにあたり、辞書の記述で解釈が分かれている点があることが注目される。(4) (『明鏡国語辞典 第二版』2010年)では、この表現の使い方について、「深読み」する意味で用いるのは誤りであると注釈を加えている。一方、(7) (『研究社 日本語口語表現辞典』2013年)では、最近の用法として、「考えすぎた」「ひねくれた」などの否定的な意味で用いられることも増えているということについて事実として触れている。(7)で口語表現として挙げられている「うがった見方」の使用文脈例も、「もっと素直に受け止めれば?」という後続文脈からわかる通り、「詮索するような」「ひねくれた」の意味で用いられている例であると考えられる。

一方、『広辞苑』では、(3) (第六版2008年)では、その意味記述に「せんさくする／あばく」など、否定的ともとらえられる表現が用いられているが、(8) (第七版2018年)では「物事の本質をよくとらえる」「普通は知られていない微妙な事柄をうまく言い表す」(下線は引用者)など、肯定的なニュアンスの表現に変わっている。

これらの記述を見ると、「うがったことを言う」「うがった見方をする」という表現について、

「深読み」をしていると考えられる場合にもその使用が広がっているということが事実としてあるとしても、その使用文脈については、あくまで「隠れた本質をとらえて」いると考えられる点にポイントがあるのではないかとと思われる。その上で、その解釈を「的確」ととらえるか、あるいは「深読み・考え過ぎ」ととらえるかは、その状況における受け止め手のとらえ方次第になるのではないかとと思われる。このように考えれば、上記の辞書で記述が分かれていると思われる点についても、矛盾なく統一的にとらえることが可能となる。

4. 「うがった」見方／解釈：使用状況・文脈を示す導入例試案

「うがった見方／解釈」という表現の実際の使用例を確認するため、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)にて、検索ツール「中納言」を使用し(検索対象：全てのジャンル、対象期間：全期間 1971～2008年)、語彙素読み「ウガツ」で検索を行うと、225例がヒットする。これらの例の中には、動詞本来の「穴を開ける」の意味で用いられているものも含まれているため、使用文脈の参考情報を得るためには、1件ずつ確認する必要がある。

また、同じく国立国語研究所「国語研日本語ウェブコーパス」(NWJC)にて、検索ドメインを指定せず「うがった」を検索すると約4,000件、表記を変え「穿った」を検索すると約6,000件の例が見つかる。ただし、この中には「『うがった』とは…」のようにこの表現の説明を行っている例も含まれているため、すべての例が実際の使用文脈の参考にできるわけではない。なお「うがった／穿った見方」では約7,000件、「うがった／穿った解釈」では約50件がヒットする。この件数を見ても、「うがった見方」というコロケーション表現の使用例が多いということがわかる⁴。

以上のように、コーパスを用いて検索を行うと実際の用例を多く得ることができる一方、教育に应用するためには、それらの実例を見た上で、必要な情報を的確にまとめ直す作業が必須となる。ここでは、それらの実例も参考として見た上で、「うがった見方／うがった解釈」という表現の導入例として、以下の(9)(10)に示すような試案を考えてみた。

ポイントとなるのは、この表現が用いられる前提となる状況・文脈である。この表現は、ある物事が、表面上は多数の人に肯定的あるいは好意的に受け止められている、あるいは特に何か問題があるとは思われていないという状況の中で、それに対し、その本質的な裏の事情をとらえるような見方を提示し、発言を行うという文脈で用いられるものと考えられる。辞書で解釈が分かっていた「物事の隠れた本質をうまくとらえている」のか、「裏の事情を深読みし過ぎている」のかという違いは、客観的な事実がどちらであるかということではなく、聞き手によるその解釈の受け止め方次第となる。いずれの場合にしても、現代社会においてはメディア報道などのあり方にもより、一般的には社会的に好意的・肯定的なものとして位置付けられている、あるいは特に問題があるとは思われていない何らかの状況の中で、その裏にあると考えられる、表面的には覆

⁴ 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を対象に語のコロケーション(語と語の結びつき)の情報を検索することのできる「NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)」(<http://nlb.ninjal.ac.jp>)を使って動詞「穿つ」を検索すると、名詞との連結形では「穿った+名詞」の形が多く、49例のうち26例が「穿った見方」(「うがった見方」も含む)との結果が出る。同様にウェブコーパスからコロケーション情報を検索することのできる「NINJAL-LWP for TWC (NLT)」(<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>)を見ると、名詞との連結形はやはり「穿った+名詞」の形が最も多く、467例中334例が「穿った見方」(「うがった見方」も含む)という結果が出る。

い隠されていると見られる本質的な事情をとらえて指摘するというのが、この「うがった見方／解釈」という表現に共通する使用文脈であると考えられる⁵。

過度な解釈ととらえられる場合には、「うがち過ぎた見方」「あまりにうがった考え」などの表現が共起可能となると思われる。また、「うがった見方をすれば」「うがった解釈かもしれないが」などの表現は、「考え過ぎ／深読みかもしれないが」という注釈表現として用いられる。ただし、そのような前置きをしつつも、その解釈をあえて提示するという表現方法がとられていることになる。

以下、2つの導入例試案を示す。

- (9) 4年に1度のオリンピックが私たちの町で開催されることになった。町中お祭り騒ぎで、試合を見るためのチケットを買うのも、競争が激しく、大変だ。申し込んだが1枚も買うことができなかったという人たちのために、もう一度申込みのチャンスが与えられることになった。だが、そこで売られるのは、どうも人気のない競技のチケットばかりらしい。うがった見方をすれば、試合をこの目で見たいという人たちのためにチャンスをもう一度作っているように見せて、実は、売れ残ったチケットを早く売ってしまおうということなのだ。

ここでは、入手しにくい試合観覧のチケットが、「敗者復活戦」のようにもう一度売り出されることになったことについて、世間一般には、「よい措置／計らいだ」「好ましい／評価できることだ」ととらえられている、あるいは特に問題があるとはされていないという状況が前提としてある。このように表面的には肯定的な評価がなされている中、それに対し「実は、このような裏の事情があると考えられる」という解釈を示すものが、この「うがった見方」である。隠された本質をとらえたものとして「なるほど」と受け止められるか、「それは考え過ぎではないか」ととらえられるかは、受け止め手の解釈次第となる。

- (10) 日本人とアメリカ人の両親を持つあるスポーツ選手は、日本で生活した経験がほとんどなく、日本語を話すこともほとんどできないが、日本の代表として試合に出ることを選んでいる。多くの日本人は、この選手が日本を選んだことをうれしく思っているが、一方、アメリカではほかに強い選手がたくさんいるから、代表になるのは大変だし、日本を選ぶと、日本企業がスポンサーになって援助をしてくれたりするので、選手として活動するのに都合がいいからだろうと言う人もいる。これは少々うがち過ぎの解釈ではないだろうか。その選手がまだ弱く、試合に勝てなかった頃から、日本のコーチだけはその才能を評価して育ててくれたらしい。だから、その選手は日本が心のふるさとなのだということだ。

ここでは、ある選手が日本の選手として選手登録をしていることについて、多くの人がそれを肯定的・好意的に受け止めている、あるいは特にそれを問題とはとらえていないという状況があ

⁵ もちろん、広く社会的に知られている事柄だけが対象となるわけではなく、身の回りの関係者間で共通の理解となっている事柄について、その背景事情をとらえて指摘するような場合でも使用可能である。

る。その中で、それが日本への愛などではなく、実は選手としての実利的な事情によるものなのだという解釈が示されたことについて、それを少々「うがち過ぎ」の解釈なのではないかとしたものである。もちろん、この解釈を「うがち過ぎ」としたのは、解釈を受け止めた側の判断である。解釈を提示する側は、「うがった見方かもしれないが、…」のように、通常通り、その見方を述べることはもちろん可能である。

上記2つの導入例は、いずれも、オリンピック開催にまつわる事情や現代社会の国際化・多様化の状況など、背景事情を説明しながら導入する必要があるだろう。

5. まとめ

本稿では、日本語学習者が抽象的概念を表す表現を的確に理解し、使用していくために、その表現の具体的な使用状況・文脈を導入例として示す必要性があることを考え、具体的に「うがった見方／解釈」という表現を取り上げ、考察を行った。今後さらに具体的な導入例をまとめた事例を積み重ね、実際に日本語教師からのフィードバックも得ながら、それを現場の日本語教育に役立たせていくことを考えたい。

引用文献

- 鎌田修他（2012）『生きた素材から学ぶ 新・中級から上級への日本語』 ジャパンタイムズ
北原保雄（編）（2010）『明鏡国語辞典 第二版』 大修館書店
国際交流基金（編著）（2002）『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』 凡人社（2007年改訂版第4刷を参照）
新村出（編）（2008）『広辞苑 第六版』 岩波書店
新村出（編）（2018）『広辞苑 第七版』 岩波書店
鈴木智美（2016）「抽象概念語彙を説明するための適切な導入例を考える — 現場教師の授業準備に役立つための試案作成に向けて」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第42号 pp.97-110
西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫（編）（2013）『岩波国語辞典 第七版 新版』 岩波書店
日本国語大辞典 第二版 編集委員会・小学館国語辞典編集部（編）（2001）『日本国語大辞典 第二版』 第二巻 小学館
松村明（編）（2006）『大辞林 第三版』 三省堂
山田忠雄他（編）（2012）『新明解国語辞典 第七版』 三省堂
山根智恵監修（2013）『研究社 日本語口語表現辞典』 研究社

コーパス・ツール等

- 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 国立国語研究所
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/
「国語研日本語ウェブコーパス」 国立国語研究所
https://bonten.ninjal.ac.jp/nwjc/string_search
「NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)」 国立国語研究所
<http://nlb.ninjal.ac.jp>
「NINJAL-LWP for TWC (NLT)」 筑波大学
<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info>

（すずき ともみ 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授）

To Introduce Appropriate Words or Expressions with Abstract Concepts: How the Expression “*Ugatta Mikata/Kaishaku*” is Used

SUZUKI Tomomi

KEYWORDS: Words or expressions with abstract concepts, Intermediate or Pre-Advanced level, Usage/Situation, Typical example usage, expression “*Ugatta*”

The purpose of this paper is to examine the best method to introduce words or expressions with abstract concepts to Japanese language learners by providing the typical usage situation and context. The provided examples should help learners to construct the schematic concept of the expressions adequately and then use the expressions in an appropriate context.

Some words and expressions with abstract concepts that appear in intermediate or pre-advanced level textbooks require additional usage explanations, including providing the appropriate situations and contexts in which the expressions are used. Ordinary dictionaries do not often provide the situations and contexts for such expressions.

In this paper the expression “*ugatta mikata/kaishaku*” which literary means “penetrating understandings” was selected as a case study. Comparing several dictionaries and actual usage examples in corpus, the following two points were found.

- (1) When this expression is used, the subject being discussed is generally accepted as supportive or agreeable.
- (2) The speaker reveals the circumstances behind the matter and point those out using this expression “*ugatta mikata/kaishaku*”.

Based on these points, some examples to introduce typical and appropriate usage of the expression have been designed.

By examining more expressions, I would like to develop resources that Japanese language teachers, and learners who are interested in Japanese society and culture as well as language could access easily.